Ⅶ-189　意識成長を考慮した環境ワークショップのデザインに関する研究

○大阪大学大学院　学生員　佐々木暁一
大阪大学大学院　正会員　藤田　壮
大阪大学大学院　正会員　盛岡　通

1. はじめに

都市計画や環境づくりのプロセスにおいて，地域に住む住民や関係する市民の意見を反映することの重要性は広く認知されており，市民や関係者が自らの生活環境の創造の機会に主体的に参加するしくみとしてワークショップ（以下，ＷＳとする）が注目されている．本研究は，大阪府箕面市「野鳥の森づくりＷＳ」および同枚方市「養父元町公園ＷＳ」を対象とし，自由記入文によるテキスト分析と参加者へのアンケート調査・分析によって参加者の意識の成長過程を検証するとともに，意識成長への参加者の属性とワークショップでの技法の効果を明らかにし，環境ＷＳの計画指針を得ることを目的とする．

2. 参加者の意識成長に関する調査・分析手法

ＷＳ参加者の意識成長プロセスを環境意識成長と協働意識成長の２つのサブプロセスから構成されるモデルとして設計した．

「野鳥の森ＷＳ」においては，２つのプロセスの各要素に関してキーワードを設定し，「ふりかえりシート」中のセンテンス数を時系列に追うことで意識成長構造の検証を試みた．一方，「養父元町公園ＷＳ」においては，ワークショップの参加回における心理面での効果について選択してもらう形式のアンケートを実施した．また，同時に参加者属性や合意形成要因分析のためのデータについても設問を設定し，回答をお願いした．

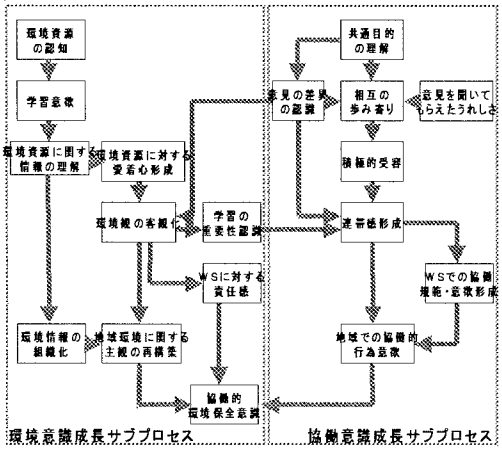

図1 意識成長プロセス

3. ワークショップにおける意識成長構造の検証

（1）「野鳥の森づくりＷＳ」および「養父元町公園ＷＳ」の概要

「野鳥の森」予定地は，「明治の森」国定公園内に位置し，約 12000 ㎡の「才が原池」を中央に配する．箕面市広報誌である「もみじだより６月号」と，市担当部局からの環境関連団体等への呼びかけによって参加者を募集した．また，「環境資源マッピング」や「専門家による環境技術の説明」「グループ案の相互評価」など多様なＷＳ技法が用いられた．

また，「養父元町公園ワークショップ」参加者は，枚方市広報誌と，市担当部局からの近隣住民への参加呼びかけによって募集した．地域住民を対象として「養父元町公園ワークショップだより」を作成し，前回のＷＳの様子を地域住民に報告することで，途中からの参加が容易になるよう工夫した．

表1 調査・分析手法

	野鳥の森ＷＳ	養父元町公園ＷＳ
調査対象	ＷＳ各回参加者	ＷＳ最終回参加者
調査手法	ふりかえりシート（自由記入	アンケート
回収率	各回平均約74％	約51％
分析手法	テキスト分析	クロス集計、相関分析、重回帰

表2 WS概要

	野鳥の森ＷＳ	養父元町公園ＷＳ
計画地所在	大阪府箕面市	大阪府枚方市
時期	1996年6月～11月	1997年7月～12月
主催	建設部公園課	公園局公園建設課
スタッフ	外部ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ、生態学専門家、等	外部ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ、行政ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、等
面積	約５ha	約2700㎡
のべ参加者	約140名	約270人
平均参加者	約30名	約50名
ＷＳ回数	計６回	計５回
のべ時間	約28時間	約20時間
会場	現地および市立施設	現地および近隣小学校

キーワード：ワークショップ，市民参加，参加体験型学習，環境意識，協働意識
連絡先：〒 565-0871　大阪府吹田市山田丘 2-1　Tel.06-879-7677　Fax.06-879-7681

（2）環境意識成長プロセスおよび協働意識成長プロセスの特性

「野鳥の森ＷＳ」および「養父元町公園ＷＳ」における意識の成長に関する分析の結果，ＷＳを通じて，「環境資源の認知」や「学習意欲」，「共通目的の理解」や「意識の差異の認識」といった要素を示すサンプル数の割合が次第に減少する一方で，「環境資源情報の理解」や「ＷＳに対する責任感」，「ＷＳでの協働規範・意欲形成」や「地域での協働的行為意欲」等の要素に関するサンプル数の割合が向上する様子が明らかになった．

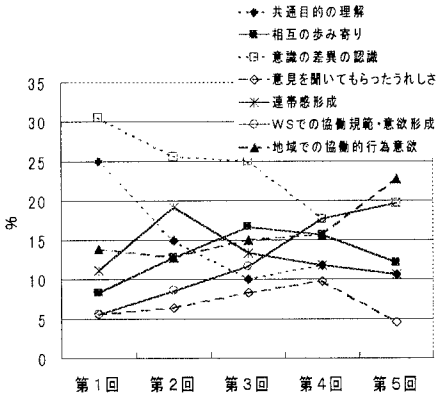

図2 協働意識成長プロセスに関する分析例

（3）意識成長プロセスの検証

「養父元町公園ＷＳ」を対象として，意識要素に関する相関分析を行ったところ，仮定した多くのプロセス間で正の相関関係が見られた．

（4）操作変数･外生変数に関する分析

「養父元町公園ＷＳ」を事例として，コミュニケーション特性を取り上げ，意識成長への影響について分析・検証ところ，①参加者に自由に発言をしてもらう方式による討議の方が，意識成長プロセスが進行するにつれてより大きな効果を持つこと，②グループ討議においては，課題の達成にしばられず，参加者間の友好的な雰囲気の創出を第一とすることで，意識成長への効果が期待できること，③参加者の中にファシリテーター以外の討議を進めるリーダーがいることで，特に環境意識の成長が顕著に促されること，がわかった．また，「公園建設予定地と居住地との近接性」「居住年数」「年齢」「環境配慮行動水準」「環境関連知識水準」「組織活動経験」という６つの参加者属性の内，内部相関の少ない４要素を取り上げ，重回帰分析を行った結果，「組織活動経験の豊富さ」と環境意識，協働意識間に正の相関，「高齢」と環境意識との間に負の相関が見られた．

（5）合意形成推進変数に関する分析

「養父元町公園ＷＳ」を事例とし，「環境情報の理解度」「ＷＳに対する責任感の強さ」「協働的環境保全意欲」「他主体との連帯感の形成度」「ＷＳての協働規範・意欲形成度」の５つの意識要素が合意形成に与える影響について検証するために，グループ案への満足度を目的変数とした重回帰分析を行った．分析の結果，図３のような相関関係がみられた．

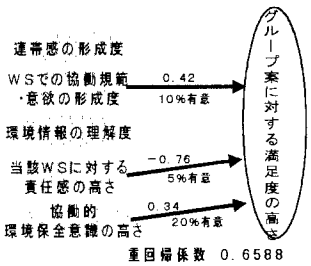

図3 合意形成と意識要素

4. 意識成長を考慮した環境ワークショップのデザイン指針

本分析の結果，環境ワークショップのデザインにおいては，以下の点に留意することで，意識の成長を期待することができる．

1)ワークショップが参加者の環境意識および協働意識の成長を促す効果を有していること．また，ワークショップを通じた協働作業経験が，連帯感の形成のみならず，協働的な行為に関する規範や意欲を形成する点において，合意形成に重要な役割を有していること．

2)参加者間の信頼関係が未構築なワークショップ開始当初を除き，基本的に参加者の自由な討議にまかせ，友好的な雰囲気の中で討議を進行することで意識の成長が期待できる．

3)組織活動経験等の参加者属性は，意識成長に影響を与えることから，計画策定のプロセスにおいては，参加者属性を踏まえた討議グループの規模や構成，全体討議への移行手法・時期，協議方法等を工夫すること．

謝辞：本研究をすすめるにあたり，枚方市公園建設課各位・箕面市公園課各位，ファシリテーターをはじめとする両ワークショップスタッフの方々，そして両ワークショップ参加者の方々から多大なる御協力をいただきました．あらためてここに感謝の意を表します．